

<「知るっば!久留米」 令和2年5月21日(木) 12:30~放送分>

久留米の安全安心なまちづくり ～第1回～ セーフコミュニティとは

<ゲスト： 安全安心推進課 主査 岡朋子さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今回は『久留米の安全安心なまちづくり』をテーマに、今週と来週2回に分けてお送りします。

今日のゲストはこの方です。

ゲスト:岡朋子さん (以下「岡」)

久留米市協働推進部安全安心推進課の岡と申します。

よろしくお願いいたします。

坂本 岡さん、よろしくお願いいたします。

最初のテーマは、『セーフコミュニティ』です。

セーフコミュニティって、そもそもどんな意味があるんですか？

岡 セーフコミュニティの意味には、大きく3つのポイントがあります。

まず1つ目は、けがや事故は偶然の結果ではなく予防できるということです。

2つ目は、久留米市単体ではなくて、市民や学校、医療機関、警察や消防など、久留米市全体で共同で取り組むということです。

3つ目は、根拠に基づいて取り組むということです。

それで、安全で安心なまちづくりを進めていくという意味になります。

坂本 ということは、久留米市民、市役所、その他の機関も含めて、みんなが力を合わせて安全で安心なまちを作っていこうというわけですね。

具体的には、どんなことなんでしょうか？

岡 例えば、夕方から夜間は歩行中の事故が多いというデータがあります。そういったことから、なるべく明るい服を着たり、反射材を着けてくださいってような促進をします。

その他には、久留米市民の病気以外での死亡原因を見ると、高齢者では、溺死や溺水、転倒、転落ってというのが上位に来ているんですね。

特に冬のお風呂場での事故が多いことから、ヒートショックの予防を啓発したりとか、転倒では、自宅での転倒が一番多いということから、自宅内での危険箇所をチェックしてもらおうといった啓発を進めているところなんです。

坂本 お年寄りが転んじったりするとか、お風呂で溺れちゃったりとか、あるということですね。
子どもさんとかは、どうなんですか？

岡 小学校では、児童自らが、いつ、どこで、どのようなけがを何人したか記録を取って、校内放送したりボードで掲示したりして予防に努めているところです。

坂本 小学校では、子どもさん達も参加してそういう取り組みをしているということですね。
取り組むメリットを教えてください。

岡 まず、こういった取り組みをすることで、事故やけがが減少します。
それから、まち全体で取り組みますので、地域の繋がりが強化されると思います。
その他にも、セーフコミュニティというのが国際認証制度なので、国際基準での安全安心なまちとして、久留米市のイメージアップにつながると考えています。

坂本 なるほど。お墨付きがあるということですね。
セーフコミュニティに取り組む背景は、どんなことだったんですか？

岡 久留米市が取り組みを始めたのが平成23年ですが、その当時は、地域意識の希薄化や暴力団の抗争事件、また東日本大震災などがあり、市民のみなさんの不安感が高まっていた状況でした。
そこで、安全安心な日々の生活ためには、行政だけではなく、市民や地域、そして関係機関等が連携して取り組むことが久留米市の目指す姿であり、それが、セーフコミュニティの理念や取り組みと合致しているというふう考えたのが、セーフコミュニティを始めたきっかけになります。

坂本 その他に久留米市の取り組みについて教えてください。

岡 久留米市では、市内で発生しているけがや事故などの状況から、6つの重点分野を決めて取り組みを進めているところです。

坂本 6つの重点取り組み分野について教えてください。

岡 交通安全、子どもの安全、高齢者の安全、犯罪・暴力の予防、自殺予防、防災、この6つを重点的に取り組んでいます。

坂本 どれも大事な分野ばかりですね。いくつか、取り組みの中身を教えてください。

岡 交通安全では、高齢者の交通事故防止として、例えば自動車学校や警察、それから交通安全協会などと協働で実技型の交通安全講習を実施しています。
その他には、自殺予防では、ゲートキーパーの啓発ですね。

ちなみに、ゲートキーパーをご存知ですか？

坂本 私は知っていますが、リスナーさんの中にはご存知でない方もいらっしゃると思いますので教えてください。

岡 ゲートキーパーというのは、身近な人の変化に気付いて、声をかけて、話を聞いて支援につないで見守ることができる人のことで、命の門番とも言われてるんですよ。
市ではこういったゲートキーパーの啓発を進めておりまして、悩みを相談できずに自殺に至る傾向があるということもありますので、一人でも多くの方がゲートキーパーになっていただければと考えています。

坂本 市民のみなさんにゲートキーパーになっていただいて、ボランティアで頑張ってもらおうということですよ。久留米市は自殺率も下がってきて、非常に注目されていると聞いています。
その他に市民の皆さんが主体になっている活動は、どんなものがありますか？

岡 各地域での取り組みとしては、パトランといわれる防犯活動があります。これは青パトに乗ったり、犬の散歩やジョギングをしながら防犯パトロールをしています。
また、まち歩きやワークショップで防災マップを作成して、そのマップに基づいた避難訓練を実施しています。なかには、防災訓練を兼ねた防災運動会を実施している校区もあります。

坂本 防災運動会って面白い取り組みですよ？
防災とか、避難とかをテーマに競技をしているってことですよ？

岡 そうです。

坂本 個人ではどんな取り組みがありますか？

岡 個人の取り組みも色々あるんですが、まず、自転車に乗るときはヘルメットをかぶる。また、夜間に出歩く時は、必ず反射材を身につけることで交通安全につながります。
その他には、家の中の転びやすい所ですね。例えば、床にコードがあったり、新聞紙が置いていと、転倒に繋がる可能性もありますので、そういったところを確認したりします。
また、日頃から体操などで体力作りをすることも転倒予防につながります。
皆さんのちょっとした行動が、自分自身、そしてみんなを守って安全安心なまちづくりにつながりますので、ぜひできるところから始めていただきたいと思っています。
久留米市が最初に国際認証を取得した平成25年12月21日にちなんで、毎月21日にセーフコミュニティ通信を配信しておりますので、ホームページでご覧いただきたいと思います。

坂本 ありがとうございます。
私たち一人ひとりが、何ができるかなって考えることが大事ななと感じました。

今日は、『セーフコミュニティとは』というテーマで、久留米市安全安心推進課の岡さんにうかがいました。

来週は、暴力追放推進の取り組みについてです。

次回もよろしくお願いします。